

臨時教職員制度の改善を 求めるシンポジウム

学校ではたらく臨時教員（非正規で採用されている教員）の数は、公立の小学校・中学校・高等学校・障害児学校の教員約120万人のうち20万人を超えていると言われます。その多くは、採用期間が1年以内、6ヶ月

単位などの短期雇用で、低い賃金と厳しい労働の条件のもとでの教育活動を余儀なくされています。臨時教員の仲間の存在とその教育活動なくして、毎日の教育活動は成り立ちません。

一方、あまりに多い臨時教員の配置によって、教員の病気休暇などの代替の教員が見つからず、「学級担任が3ヶ月も不在だった」「代替者が未配置で定期試験も未実施」など「教育に穴があく」と呼ばれる事態が広がっています。以前は考えられなかった教員の3割、4割を臨時教員が占める学校も現れ、教育活動の継続性の確保が必ずかくなる、との声も出ています。こうした問題をどう改善したらよいか、考えあいましょう。

こんなに臨時の先生が多いとは知りませんでした。保護者としては正規の先生と区別が付きません。未来を担う子どもたちの教育のために、先生の身分や待遇をきちんと保障する必要があります。

(千葉県・保護者の声)



臨時教員の実状を伝える報道各紙

日時 2010年12月4日(土) 11:00開会 16:00終了

場所 全国教育文化会館7階大会議室

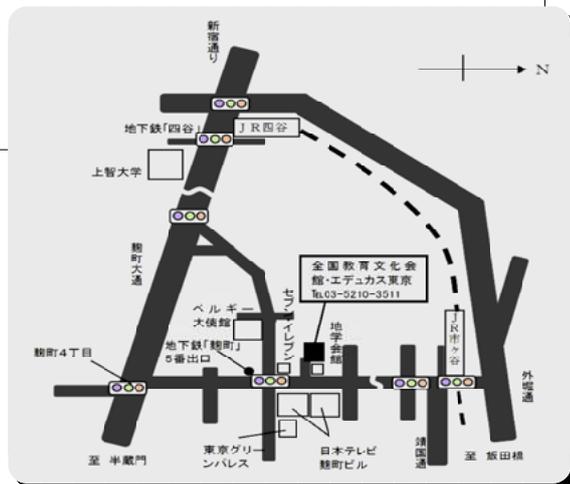
(地下鉄有楽町線「麹町」5・6番出口徒歩2分・地図参照)

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1 TEL03-5210-3511

<集会のおもな構成>

- 主催者からの基調報告
- 研究者、報道記者、臨時教員によるシンポジウム

※どなたでもご参加いただけます。参加ご希望の方は以下の主催者事務局までご一報ください。



主催：全日本教職員組合(全教)・教組共闘連絡会

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3階 TEL03-5211-0123 (全教) fax. 03-5211-0124
e-mail:zenkyo@zenkyo.org